

情報連絡員報告総括表（令和4年8月分）

三重県中小企業団体中央会  
 連絡員総数 40名  
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況							
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化					
製 造 業	食料品	1	3			4		1	3		1	3		1	1	2		4		1	3			4		1	1	2					
	繊維工業	1	1	1		3		2	1			3			3			3		1	2			2	1		2	1					
	木材・木製品			1		1				1			1			1		1				1		1				1					
	紙・紙加工品	1		1		2		1	1		1		1	1		1		2				2		2			1	1					
	印刷		1			1		1			1				1		1		1		1		1			1							
	化学・ゴム																																
	窯業・土石製品		3			3		1	2			2	1		1	2		3			3			3			2	1					
	鉄鋼・金属			1		1			1				1		1		1		1			1		1				1					
	一般機器	1	1	1	2	1		2	1			2	1		2	1		3			2	1		2	1		2	1					
	電気機器			1		1			1			1				1			1			1		1				1					
	輸送機器		1				1		1			1				1		1			1			1			1						
その他																																	
	小計	4	10	6	2	17	1	8	11	1	2	13	5	2	8	10		19	1	2	12	6		18	2	1	10	9					
非 製 造 業	卸売業		2			1	1	2			2			1	1		2		X				2			1	1						
	小売業	1	4	1		4	2	3	3		3	3		2	4		4	2							6			3	3				
	商店街		1				1	1				1			1			1									1		1				
	サービス業		3	2	X				5			5			5			4				1				1	4			3	2		
	建設業		2	2						3	1		3	1		2	2					2	2						3	1		2	2
	運輸業			1						1			1					1							1				1				1
	その他		1							1			1			1						1		1					1				1
	小計	1	13	6		5	4	6	13	1		15	5		11	9		13	7				1	17	2		10	10					
	合計	5	23	12	2	22	5	14	24	2	2	28	10	2	19	19		32	8	2	12	6	1	35	4	1	20	19					

## 最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和3年8月～令和4年8月)

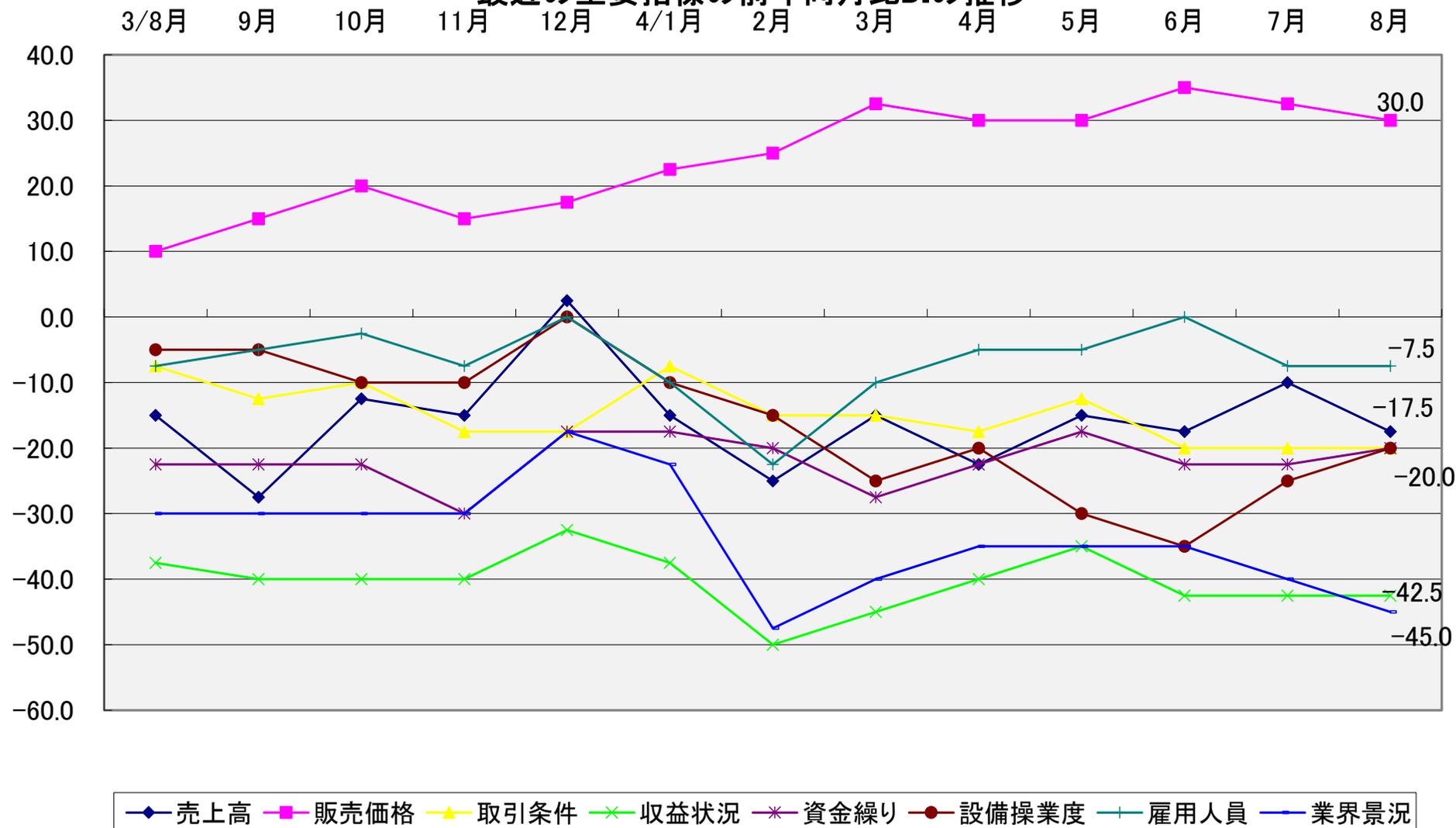
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	3/8月	9月	10月	11月	12月	4/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	増減
売上高	-15.0	-27.5	-12.5	-15.0	2.5	-15.0	-25.0	-15.0	-22.5	-15.0	-17.5	-10.0	-17.5	-7.5
販売価格	10.0	15.0	20.0	15.0	17.5	22.5	25.0	32.5	30.0	30.0	35.0	32.5	30.0	-2.5
取引条件	-7.5	-12.5	-10.0	-17.5	-17.5	-7.5	-15.0	-15.0	-17.5	-12.5	-20.0	-20.0	-20.0	0.0
収益状況	-37.5	-40.0	-40.0	-40.0	-32.5	-37.5	-50.0	-45.0	-40.0	-35.0	-42.5	-42.5	-42.5	0.0
資金繰り	-22.5	-22.5	-22.5	-30.0	-17.5	-17.5	-20.0	-27.5	-22.5	-17.5	-22.5	-22.5	-20.0	2.5
設備操業度	-5.0	-5.0	-10.0	-10.0	0.0	-10.0	-15.0	-25.0	-20.0	-30.0	-35.0	-25.0	-20.0	5.0
雇用人員	-7.5	-5.0	-2.5	-7.5	0.0	-10.0	-22.5	-10.0	-5.0	-5.0	0.0	-7.5	-7.5	0.0
業界景況	-30.0	-30.0	-30.0	-30.0	-17.5	-22.5	-47.5	-40.0	-35.0	-35.0	-35.0	-40.0	-45.0	-5.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする  
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

### 最近の主要指標の前年同月比DIの推移



報告者名  
報告年月

三重県中小企業団体中央会  
令和4年8月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足は続いている。今年は8月に雨が多く葉菜類を中心に初期生育が遅れている。また、販売状況においても、コロナウイルスの影響により、お土産物の漬物の販売及び外食産業での需要の減少が続いてきたが、旅行者の増加などにより、お土産物の需要がやや回復してきた。一方でウクライナ戦争の影響による諸資材の高騰により、製造コストに影響が出ている。	
	醤油味噌	行動制限のないお盆休みを迎え、人の動きが活発になってきている。しかし、感染者は増加・高止まりの状況で三重県も1日の感染者が過去最高を更新している。8月はしょうゆや味噌の仕込みが少なく大豆・小麦等の消費量も少ない。コストが上昇している中で、需要はなかなか上向きにならず収益的には厳しい状況が続いている。穀物関係の相場はアメリカ産大豆、コーンの高値は続いている。小麦は13ドルから7ドル台まで下がってきている。原油が80ドルまで下がってきているため油脂などが下がらないかと期待をしている。脱脂大豆はアメリカ産が高騰している中、インド産が下がっているの買い付けがシフトしている。9月の収穫期に問題がなければ昨年以上の収穫が見込まれるが、価格は円安が影響している。	
	製麺	昨年に比べて、第7波がまん延している状況で、まだまだ先の見通しが立てにくい日が続いている。イベントの開催が秋より始まる事もあり、少しは明るい兆しとなっている。今後、三重県産小麦を使った新しい商品開発に組合として取組んでいくことになり、ラーメン、焼きそばの開発を行っていく。11月に麦価の値上がりが見え置きとなり、今後の先行きが見えない状況である。	
繊維工業	テントシート	材料仕入価格の上昇が売上に悪影響を及ぼしている。	
木材・木製品	木材	住宅資材全般の品薄傾向は薄れつつあり、前月比、前年同月比とも弱含み傾向ではある。	
製 造 業	紙器段ボール	今年も猛暑や局地的な豪雨、多雨などの天候不順で、それぞれの業界の需要も低迷した。車や電機関係も半導体不足で減産が続いた。また食品を中心とした物価高や新型コロナウイルス感染の拡大により、段ボールケースの出荷も昨年同様か企業により5~10%減少している。尚、日本製紙連合会によると7月の紙と板紙の国内出荷は、180万6千トンで、前年同月比2.2%減であった。	
	紙・紙加工品	古紙	8月の仕入量：段ボール・約96±3%、新聞、チラシ・約94±5%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約85±12%と思われる。中小零細企業へのコスト負担増の古紙価格補正予算が一部にあり、大変ありがたい。しかし、続く円安と為替の乱高下で輸出古紙は時価で集荷減少幅が大きく、先が読めない状況である。コロナ感染者数も過去最大で一般的に重症化しにくいオミクロン株でも死者数統計は大きく増加し、台風や残暑の影響もあるためか、集荷量は減少している印象である。食料品の値上げや燃料高騰も消費減に繋がり、古紙集荷量は減少予測である。今後の賃金上昇等により、会社経営は苦しくなりそうである。原紙は輸出契約が出来ていない会社もあるようで、稼働益も在庫コストとなるかもしれず、販売価格の値上げも難しい所がある様である。製紙会社様の古紙在庫は有る無しがあるようで、発注量は前年並みながら未達が多い様である。古紙の持ち去りはなくなり、ゴミの置き去り行為も回収容器に投げ込む方が散見され、より悪質で件数が増えそうでは無い法的対応をお願いしたい。
	印刷	印刷	刷版、インキ等に続き、9月からは用紙価格が今年2回目の値上げ(10~15%以上)になる模様である。印刷価格は用紙代の比重が大きいため価格転嫁は必須だが、その都度の懇願は非常に厳しい状況である。
窯業・土石製品	伊賀焼	コロナウイルス感染拡大につき、客足が減少している。お盆の時期はいつも売上は上がるのだが、今年は客足が少ない事で、減少から横ばいとなっている。	
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産額は7月に比べ稼働日数が少ない割には横並びの状況であった。自動車関連が意外と回復したことが結果に出ていた。建築関連部品及びガス関連部品は横ばいの状態であった、半導体関連は引き続き好調である。原材料の高騰、エネルギー価格の高騰(ガス、重油、電力料)が続きそれによる収益の圧迫で経営面では非常に厳しい状況である。	
一般機器	四日市	実状、業況はコロナ感染の再拡大を受けて生産や人手に支障を来している。半導体不足や紛争の長期化、急激な円安により材料不足、特に仕入れ価格の上昇などで引き続き企業経営に悪影響が出ており横ばいや下向きの傾向はあっても上向く兆しは見受けられない。	
	津市	5~6月を比べると自動車業界の稼働停止は減って、良くなってきたようにみえるが、8月は1週間の夏季休暇で稼働していないため低調である。売上は前年より増加しているが、材料仕入値が上がった事による売上増加のため、数字だけを見ると良くなっているように見えてしまっている。一部の材料が引続き入りにくい状況である。	

報告者名  
報告年月

三重県中小企業団体中央会  
令和4年8月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
	伊勢	モノ不足、部品不足は続いているが、更なる悪化はしていない。業界不振は収まり、底這いの感じがしている。販売価格については、値上げの承認を得て販売しているが、売上高は減少している。また、円安の影響が業績不振の起因でもある。	
	電気機器	鳥羽	産業機器部門関連の受注がまだまだ回復せず、全体では10～15%ダウンで推移している。
	輸送機器	鈴鹿	長期化している部品供給不足のため大手自動車メーカーでは夏季休暇を数日間延長し、組立ラインの稼働が当初予定よりも減少した。挽回のため9月以降は毎月1～2日間の休日稼働が予定されていたが、9月もやはり部品供給の不足のため、その休日稼働は取り止めになった。COVID-19の感染者増に伴い、従業員でも濃厚接触者としての自宅待機が必要な者が増えており業務に支障をきたしている。
非 製 造 業	青果	野菜前半：果菜を中心に一部の品目が東北地方や北海道の大雨の影響を受け、入荷が不安定である。特にきゅうり、ミニトマトが値上がりしている。北海道から玉ねぎの入荷が始まる。じゃがいもも順調に入荷している。人参が値下がりし、しめじ他きのこ類もお買い得である。 野菜後半：悪天候の影響で入荷が不安定な品目が多いが、全体的に荷動きが鈍く、あまり価格も影響していない長野産レタスが値上がりしている。キャベツは長野産から群馬産が順調に入荷している。 果物前半：すいかは長野産、山形産が中心で味も良い。桃は長野産、山梨産等から順調に入荷し、昨年に比べて安い。梨の「幸水」は地場産中心で味も良い。シャインマスカットは山梨産、長野産、ハウス栽培の出荷が終盤で、贈答用として人気のあるみかんと同じく、シャインマスカットも人気である。 果物後半：梨も地場産が終盤になり、お買い得である。シャインマスカットの露地物が出始めた。りんごも長野から「サンつがる」の新物が入荷している。愛知産のいちじくの出荷が最盛期である。甘くて美味しく、少し安くなった。桃は入荷が減り、値上がりしている。	
	自転車	夏本番、コロナ禍から始まった物流の乱れと部材の不足、円安を含めた物価上昇が続く中、自転車メーカー各社もコスト削減並びに生産合理化を進め、様々なサマーキャンペーンを打ち出してきた。しかし、人の流れが学生の夏休みを含め、ストップしてしまった状況では、各ショップも仕入を控えるところである。7月下旬以降、電動アシスト自転車、各種アクセサリ、補修部品、バッテリー、充電器等は15%以上の値上げがあり、小売、修理部門においては、その都度値上げをしなければならぬ状況となっている。	
	小売業	電器	本格的な夏商戦に入り、エアコンを中心とする家電製品関連はコロナ前までとはいかないが、回復してきた感じがする。お盆休みが各メーカーや企業でばらつきのある年であったため、店舗としては運動してお盆休みを設定するかについて少し考えた。人の動きも出ていることで商品の動きも少々出てきているようである。現状まだ各商品が潤沢に入手できる状況ではないので、油断は禁物である。今後の仕入れ価格の上昇も気になるところである。
	石油	三重県石油商業組合では毎年、組合員による災害対応実施訓練を実施している。目的は、揮発油販売業者が災害時においても石油製品の安定供給を行うため、中核SS等における災害時対応実施訓練及び中核SS等に設置された緊急用発電機の点検を実施し、発電機からの電源供給により緊急車両への給油を行い、SSの災害対応能力強化を図ることを目的としている。 本年は10月16日(日) 9:30～12:00まで、伊勢市の三重交通商事(株)伊勢御園営業所にて訓練を行う。また、10月23日(日)令和4年度三重県・尾鷲市・紀北町・南伊勢町総合防災訓練にも参加をする。今年度は防災ヘリコプター等へ組合員による航空燃料補給訓練を行う。 ・「中核SS」について 平成23年3月の東日本大震災の教訓を踏まえ、災害時に警察、消防などの緊急車両への優先給油を継続するため、自家発電機や大型タンクを備えた「中核SS・小口燃料配送拠点」を全国に約2,000カ所整備している。	
	スポーツ	本来なら、夏休み中で中学、高校いずれも部活が活発に行われる時期であるが、本年はコロナ禍と天候の不調で動きが良くなかったようである。教職員の働き方改革で、今後クラブ活動がどうなっていくのか心配である。体育会系の教師はいずれもそれぞれの大会で自分が担当しているクラブが良い成績を上げようと頑張る。時間外勤務等は全くありません。組合の中での話としては、急げ者講師がうるさく発言するようで、困っているとの事であった。青少年健全育成の基となるのがそれぞれの中学生、高校生のクラブ活動である。頑張っている教師に手当をつけてあげて欲しい。	
商店街	熊野市	規制のない久しぶりの夏を迎えたが、感染者数は高止まりの状況の為、飲食店等は相当影響をうけていた。帰省の多かった今年のお盆は、お土産物等の観光事業については昨年より売り上げは微増ではあったが、飲食関係は、帰省しても外食を控えて過ごす帰省者も多いかった為、協力金が出ない今年は厳しかったとの話をよく聞く。また感染拡大を恐れ、自主的にお盆期間中を休業にした店もあったとの事である。	

報告者名  
報告年月

三重県中小企業団体中央会  
令和4年8月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
サービス業	旅館	例年の夏休みは7月下旬より8月20日過ぎまで、どこも満室に近い盛況ぶりであったが、今年は盆休みの一週間は満室になったようであるが、その前後は閑散とした日もあった。大きな台風もなく、天候には恵まれたが、海水浴場も平日は閑散としていた。観光施設によってはコロナ前の入場者数に戻った施設もあるようであるが、感染拡大が続く中においては、予約の拡大にはつながらなかった。対前年比は100%、2019年8月比は70～80%程度であった。
	警備	令和4年8月5日に「三重県 BA.5 対策強化宣言」が発令されたなか、業者の方でコロナ感染者が多く出て工事が延期になったため、売上が減少した。
建設業	総合工事業	令和4年7月末での国及び三重県発注工事工事における三重県内の建設企業の受注高は、前年同期の約20%減と厳しい状況となっている。特に国発注工事においては、前年度比48%減と大幅な減少となっている。個別の工事においても、建設業の主要資材である生コンクリートの単価上昇が予定されており、工事契約時からの材料単価上昇が工事費全体に及ぼす状況について注視が必要である。
	内装工事業	8月はお盆休みもあり、例年売上は落ち込んでいる。今年は前年同月の売上が高かった事で、大きなマイナスとなった。コロナの影響もあり、非常に厳しい状況である。
	水道工事業 (亀山)	資材の入手困難な状況や価格の上昇等、まだまだ先行きが不安定な状況が続いている。
運輸業	トラック	軽油価格は若干の値下がりは見られたが、依然として高止まりが続いており、経営を圧迫している。コロナ禍による半導体を含む部材供給不足は各方面で影響が続いている。電子デバイス部門は足踏み状態となっており、自動車関連についても輸送量が回復していない。スーパー小売部門についても消費者物価上昇の影響で、減少傾向が続いていたことから、輸送についてもその影響を受けた。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	醤油味噌	コロナの感染者が過去最多を記録する中、従業員が感染し人手不足となり、一時的に事業縮小をせざるを得ない中小零細企業がある。それら企業の救済の施策がほしい。
食料品	製麺	引き継ぎ、県の委託業務に組合として相談に乗ってほしい。
一般機器	四日市	コロナが大きな影響を及ぼしている。一部大企業の設備投資が上向きとなってきたが中小製造業にその好影響が及んでいるのはごく一部であり、長期化している海外の紛争や円安により、物価、原価が上昇し続けても販売価格に転嫁できず、資材の納期長期化により稼働が停滞したり資金繰りが悪化する企業も多くみられる。そういった現状の把握ときめ細やかな支援、コロナ対策の速やかな改善を希望している。
サービス業	旅館	収益が回復する前にコロナ関連融資の返済が始まる事が業界にとって重しとなっている。今に至っては、金融支援なくしては耐えられない状況になっている。8月31日開催の金融懇談会でも以前から要望していた案件や意見が繰り返し出していた。金融支援策を早く実現することにより、どうか政府から手を差し伸べて欲しい。